

笠島プロジェクト

代表者 清水 瑠璃（創造工学部 創造工学科 3年）

1. 目的と概要

香川県丸亀市塩飽本島町笠島は、江戸時代後期から昭和初期にかけて形成された歴史的な町並みが現存する漁村集落であり、昭和60年には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。以降、伝統的建造物の修理や景観整備が進められてきたが、近年では人口減少や高齢化の進行により、保存・活用を担う後継者不足が大きな課題となっている。

本プロジェクトでは、笠島地区における保存および活用に関する取り組みを通じて、その魅力を広く発信し、より多くの人々に地域の価値を認知してもらうことを目的とする。さらに、歴史的町並みという資源を活かし、建築を専門とする学生に対して実践的な学びの機会を提供することも併せて目指す。



笠島地区の様子（マッチョ通り）



笠島地区の様子（東小路）

2. 実施期間（実施日）

令和7年4月1日から 令和8年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクトでは主に、「地域行事への参加」「施工ワークショップ」「古民家改修」を実施した。

地域行事への参加では、10月に開催された「瀬戸芸応援＋笠島まち並40周年記念祭プログラム」において、かつての秋祭りで使用されていた太鼓台の披露や伊勢大上神楽の演舞が行われ、地域の歴史や文化が色濃く表れる機会となった。本プロジェクトは司会やガイドとして運営に関わり、来訪者への案内やイベント進行を担う中で、地域住民との交流を深め、信頼関係の構築に寄与した。また、実際に行事を支える立場として関わることで、文献や見学だけでは得られない地域文化への理解を深める貴重な経験となった。



太鼓台の披露



ガイドの様子

「施工ワークショップ」では、令和7年10月1日に笠谷工務店主催のもと開催され、伝統的建築工法を実体験することを目的として本プロジェクトメンバーが参加した。四国職業能力開発大学校の学生とともに、土壁の解体や左官による壁塗りといった作業を行い、材料の特性や施工の手順、職人の技術の重要性について体感的に学ぶことができた。これにより、図面や講義だけでは理解しきれない建築の実践的側面や、伝統工法の持つ合理性・魅力について理解を深める機会となった。



参加した学生ら



土壁の解体

「古民家改修」では、創造工学部建築・都市環境コースおよび創発科学研究科の学生が参加し、笠島地区に在住予定の建築家の指導のもと、地区内の民家の改修を行った。改修後は瀬戸内国際芸術祭 2025 秋会期に合わせて一般公開し、「若者に伝統的日本人家屋の良さを伝える」をテーマに、和と洋の生活様式を対比させた空間構成を創出した。来場者数は500名以上にのぼり、さらに2回のワークショップを実施することで多世代交流の促進にもつながった。プロの建築家や実務者からの指導・助言は、参加学生にとって通常の授業では得難い貴重な経験となったといえる。



改修後の古民家



オープニングパーティーの様子

また、これらの活動に加え、本島町笠島まち並保存協力会の補助として、笠島に関するホームページの作成や SNS の運用による情報発信を行い、笠島地区の認知度向上に貢献した。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

まず本学においては、学生が実際に地域に入り、古民家の改修や地域行事の運営に関わることで、実践的な学びの機会が得られた点大きい。特に、設計から施工、公開まで一連の流れに関わった経験は、普段の講義では得ることができない貴重なものであった。また地域住民や建築の実務者と関わる中で、自分たちの考えを伝えたり調整したりする場面も多く、コミュニケーション力や柔軟な対応力の向上にもつながったと感じている。さらに、学部や学年を超えて活動したことで、学生同士の交流や刺激にもなり、学びの幅が広がった。

一方、地域社会に対しては、学生が継続的に関わることで、地域のにぎわいづくりに少しでも貢献できたのではないかと考える。古民家改修の公開やワークショップの実施によって、地域外からの来訪者が増え、笠島の魅力を知ってもらうきっかけをつくることができた。また、地域行事に運営側として参加したことで、住民の方々との距離が縮まり、信頼関係の構築にもつながったと感じている。加えて、ホームページや SNS での発信により、これまであまり知られていなかった笠島の情報を広く届けることができ、認知度向上にも寄与したと考えられる。

以上のことから、本事業は学生にとって学びの多い経験であると同時に、地域に対しても一定の貢献ができた取り組みであったといえる。今後もこのような活動を継続していくことで、大学と地域のより良い関係づくりにつながっていくのではないかと考える。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

まず、実際の地域や建物を対象に活動したことで、これまで講義で学んできた知識がどのように現場で活かされるのかを具体的に理解することができた。設計だけでなく、施工や運営にも関わったことで、建築が多くの人との関わりの中で成り立っていることを実感し、建築に対する視野が広がったと感じている。また、伝統的な工法や歴史的建築に触れることで、これまで以上に建築の価値や魅力について深く考えるようになった。

さらに、地域住民や建築家、他大学の学生など、普段の学生生活では関わることの少ない人々と交流する機会が多く、自分の考えを伝える力や相手の意見を理解する力が身についたと感じている。特に、限られた時間の中で意見をまとめたり、協力して作業を進めたりする経験は、チームで物事に取り組む大切さを学ぶ良い機会となった。

加えて、イベントの運営や情報発信にも関わったことで、建築以外の視点、例えば人に伝えることの難しさや重要性についても学ぶことができた。自分たちが関わった活動に対して来場者から直接反応をもらえたことは大きな達成感につながり、今後の学びや活動への意欲向上にもつながった。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本プロジェクトでは多くの成果が得られた一方で、準備やスケジュール管理が不十分な場面もあり、今後はより計画的に進める必要があると感じた。また、情報発信についても継続性や内容の工夫に課題が残った。

今後は、「笠島プロジェクト」で得た知見と、香川大学の建築学生による「KASASHIMA STUDIO」を統合し、より強固な体制で活動していく予定である。これまでの豊島邸での経験を活かし、次年度は設計コンペの開催や伝統工法のワークショップを継続することで、学びの場のさらなる充実を目指す。

また、活動を円滑に進めるためには、4月からの現地調査や夏季のイベントに向けた早期準備が重要である。支援を受けながら、地域住民・専門家・学生が連携する体制を強化し、関係人口の創出と定着につなげていきたい。

7. 実施メンバー

| | | | |
|-----|------------------|-----------------|--|
| 代表者 | 清水 瑠璃（創造工学部3年） | | |
| 構成員 | 川嶋 伸岳（創発科学研究科2年） | 奥田 乃都香（創造工学部3年） | |
| | 石崎 萌永利（創造工学部4年） | 西野 浩成（創造工学部3年） | |
| | 公文 梨瑚（創造工学部4年） | 道本 孟宗（創造工学部3年） | |
| | 内田 美咲（創造工学部4年） | 坂本 心華（創造工学部3年） | |
| | 田川 蒼真（創造工学部4年） | 安葉 桜子（創造工学部3年） | |
| | 春富 妃花（創造工学部4年） | 奥 菜々香（創造工学部3年） | |
| | 松野 百華（創造工学部4年） | 清水 瑠璃（創造工学部3年） | |
| | 月田 茉奈（創造工学部3年） | 小林 ハルコ（創造工学部3年） | |
| | 曾我 彩夏（創発工学部3年） | 藤田 実紅（創造工学部2年） | |
| | 久米 みくりあ（創発工学部2年） | 入江 萌衣（創造工学部2年） | |
| | 増成 遥（創発工学部2年） | 山口 佳乃（創造工学部2年） | |
| | 森元 優（創発工学部2年） | 河野 明登（創造工学部2年） | |

8. 執行経費内訳書

| 配分予算額 | | 141,500円 | | |
|---------------|----|----------|-------|----|
| 執行経費(品目等) | 数量 | 単価(円) | 金額(円) | 備考 |
| 鉄道賃(高松～丸亀 往復) | 1 | 1,260 | 1,260 | |
| 鉄道賃(丸亀～高松 片道) | 1 | 630 | 630 | |
| 合 計 | | | 1,890 | |